

# 平成 28 年度 社会福祉法人川俣町社会福祉協議会事業報告書

## 1.地域を支える人づくり

### (1)福祉意識の醸成

#### 親子ふれあい福祉映画鑑賞会

(目的) 映画を通して家族の大切さについて考え、楽しみながら親子のふれあいの時間を創出する。

(実績) 平成 29 年 1 月 15 日 川俣町中央公民館ホールで開催 参加者 30 名

(評価) 今回から川俣町青少年育成協議会と共催で事業を実施し、チラシの配布や当日の運営を共同で行った。

当日は大雪となり、昨年度よりも参加者が少ないという結果となった。今後は、川俣町青少年育成協議会との連携を深め、目的が達成されるよう開催日や内容を検討して開催する必要がある。

#### 各種ボランティア講座の開催（各種団体等との連携による）

##### ① ボランティア入門講座

(目的) 地域の支え合い活動の実践事例を聞き、実際の活動を知ること、その大切さを改めて認識し、地区住民が自らの地域課題を発見する機会とする。

(実績) 平成 29 年 3 月 22 日 小神公民館で開催

事例発表：福の神サロン代表 酒井敏子氏 参加者 13 名

(評価) 地域の支え合い活動について、体験やワークショップにより、楽しみながら参加者の理解を深めることができた。

##### ② ジュニアボランティア講座（川俣 KID' S / Jr. 体験プログラム）

(目的) 町内で活動しているボランティア団体に関する理解を深めると同時に、活動を通して人から感謝されたりやりがいを感じたりすることにより、ボランティアへ関心を持つきっかけをつくる。

(実績) 平成 28 年 8 月 8 日～12 月 18 日（全 4 回）

川俣町老人福祉センター等で開催 延参加者 25 名

(評価) 部活動等との兼ね合いにより、中学生の参加が難しい現状が伺えた。小学生は学区外への児童単独での出歩きが禁止されており、参加希望であっても保護者の送迎ができないため、参加することができないという状況が見受けられた。内容の検討と合わせて参加しやすい体制整備が必要である。

##### ③ 傾聴ボランティア講座

(目的) 孤独を感じている方々に寄り添い、1人で抱え込みがちな悩みを吐き出す手助けをしたり、孤独感を和らげたりするためのコツや技術を学ぶ講座を開催する。

(実績) 平成 28 年 10 月 20 日～11 月 8 日（全 3 回）川俣町老人福祉センター等で開催

講師：一般財団法人福島県介護支援専門員協会会長 千葉喜弘氏

延参加者 43 名（新規傾聴ボランティアグループ立ち上げ 1 件）

(評価) 今年度の講座修了者数名が新たに南東北福祉センターで活動することとなり、町内の高齢者施設ではグループホーム以外の全ての施設において傾聴ボランティアが活動することとなった。今後は活動の継続支援にも注力していきたい。

### 学校への講師派遣

(目的) 学校と連携し、児童・生徒の福祉意識向上を図るため。

(実績) 高齢者疑似体験指導

平成 28 年 10 月 18 日 川俣南小学校へ職員 1 名派遣

平成 28 年 12 月 12 日 富田小学校へ職員 1 名派遣

いきいき荘見学及びデイサービス利用者との交流

平成 29 年 2 月 7 日 富田小学校 6 年生 8 名が来所

(評価) 担当教諭と情報交換を行い、各学校の目的に添った指導や交流を行うことで、学校との連携を深めることができ、児童・生徒に対する福祉意識の向上を図ることができた。今後も依頼があった場合は積極的に職員を派遣し、福祉教育を推進していく。

### 障がい者理解の啓発

(目的) 町内授産所の円滑な運営のため、各種助成金等の情報を案内する。

(実績) 赤い羽根共同募金や助成団体の事業について案内を行った。

(評価) 授産所の目的に添った助成金を案内することで、授産所の活動が活性化し、障がい者理解の啓発に寄与することができた。

## (2) ボランティア活動の活性化

### ボランティアセンターの運営・強化 ボランティア団体への協力・支援

(目的) 住民同士の支え合い意識の醸成・強化を図るため。

(実績) ボランティアセンターの運営

登録ボランティア 団体：20 団体 個人：13 名

ボランティア団体への協力・支援

① ボランティア・受入施設情報交換会の開催

平成 28 年 6 月 23 日 川俣町老人福祉センターで開催 参加者 22 名

② 受入施設職員情報交換会の開催

平成 28 年 4 月 22 日 川俣町老人福祉センターで開催 参加者 5 名

ボランティア活動保険の窓口対応

加入件数 6 件

(評価) ボランティアと、それを受ける福祉施設職員の交流の場を新たに設け、活動場所の新規開拓につながった。また、福祉施設職員が町内で活動しているボランティア団体への理解を深める場にもなり、今後の継続開催希望が多く寄せられた。

## 2. 誰もがつながりあう仕組みづくり

### (1) 地域コミュニティの形成

#### 友愛訪問活動助成金交付事業

(目的) 川俣町老人クラブ連合会が寝たきりや一人暮らしの方々に対して行う友愛訪問活動の活性化のため。

(実績) 150,000 円を助成。

(評価) 助成金を交付することで、川俣町老人クラブ連合会から単位老人クラブへ助成金が行き渡り、活動の活性化に寄与することができた。

#### 川俣町民生委員協議会への助成金交付事業

(目的) 川俣町民生委員協議会の育成強化のため。

(実績) 50,000 円を助成。

(評価) 助成金を交付することで、民生委員活動にかかる事務消耗品等を購入することができ、活動の活性化に寄与することができた。

<p><b>川俣町老人クラブ連合会への助成金交付事業</b></p> <p>(目的) 川俣町老人クラブ連合会の育成強化のため。</p> <p>(実績) 30,000 円を助成。</p> <p>(評価) 助成金を交付することで、作品展やスポーツ大会等の事業を充実させることができ、活動の活性化に寄与することができた。</p>
<p><b>川俣町赤十字奉仕団への助成金交付事業</b></p> <p>(目的) 川俣町赤十字奉仕団の育成強化のため。</p> <p>(実績) 50,000 円を助成。</p> <p>(評価) 助成金を交付することで、奉仕団として行うボランティア活動を充実させることができ、活動の活性化に寄与することができた。</p>
<p><b>川俣町身体障がい者福祉会への助成金交付事業</b></p> <p>(目的) 川俣町身体障がい者福祉会の育成強化のため。</p> <p>(実績) 40,000 円を助成。</p> <p>(評価) 助成金を交付することで、歩行訓練等の事業を充実させることができ、活動の活性化に寄与することができた。</p>
<p><b>川俣町遺族会への助成金交付事業</b></p> <p>(目的) 川俣町遺族会の育成強化のため。</p> <p>(実績) 20,000 円を助成。</p> <p>(評価) 助成金を交付することで、戦没者追悼式等に参加する機会が増え、活動の活性化に寄与することができた。</p>
<p><b>川俣町手をつなぐ親の会への助成金交付事業</b></p> <p>(目的) 川俣町手をつなぐ親の会の育成強化のため。</p> <p>(実績) 10,000 円を助成。</p> <p>(評価) 助成金を交付することで、芋煮会等の活動を充実させることができ、活動の活性化に寄与することができた。</p>
<p><b>川俣町民生委員協議会の運営</b></p> <p>(目的) 民生委員活動を円滑に実施するため。</p> <p>(実績) 民生委員 52 名、主任児童委員 3 名に対する事務局としての運営を行った。定例会を年 8 回、支部長会議を年 2 回実施。その他事業を実施した。</p> <p>(評価) 平成 28 年度は民生委員の一斉改選期であり、10 名が新任委員となった。引継等を円滑に実施し、民生委員活動の促進を図ることができた。</p>
<p><b>川俣町社会福祉推進員活動事務費交付事業</b></p> <p>(目的) 川俣町社会福祉推進員に委嘱している川俣町行政区長協議会の行政区長・行政連絡員の活動を活性化させるため。</p> <p>(実績) 100,000 円を交付。</p> <p>(評価) 川俣町社会福祉推進員に年 3 回の広報誌配布、社協会費の募集、赤い羽根共同募金の募集に協力していただき、町民への周知を円滑に行うことができた。その活動に対する事務費を交付することで、活動の活性化に寄与することができた。</p>

## (2)交流の場や機会の充実

<p><b>一人暮らし高齢者のつどい</b></p> <p>(目的) 70 歳以上の一人暮らし高齢者が集まり、交流する機会を創出する。</p> <p>(実績) 平成 28 年 7 月 11 日 馬場の湯温泉 若松屋旅館 (三春町) で開催 参加者 64 名 川俣町、川俣ロータリークラブ、川俣町赤十字奉仕団の後援により、日帰りのバス旅行を実施。スタッフ 11 名。保健師による健康講座を実施した。</p> <p>(評価) 高齢者が温泉での交流や親睦を図ることができた。参加者からは特に料理の内容が良かったとの声があった。大変好評であるため、今後も継続して開催し、交流の場を提供していきたい。</p>
---

#### 高齢者の健康料理教室

- (目的) 65歳以上の高齢者に健康な食生活を送っていただくため。  
(実績) 平成28年11月22日 川俣町保健センターで開催 参加者16名  
(評価) 今回は川俣町老人クラブ連合会から後援をいただき、65歳以上の高齢者を対象に事業を実施した。町内各地区から参加があり、大変好評であった。

#### ふれあいきいきサロンの普及・支援

- (目的) 川俣町内のサロン活動を支援することで、高齢者の孤立防止や介護予防、生きがいづくりを行う。  
(実績) サロン助成金311,000円、講師派遣事業58,000円(10件)  
サロン交流会 参加者39名  
平成29年3月末現在、サロン28ヶ所、サロン参加者数471名  
サロン訪問によるレクリエーション実施、実施状況確認等(28ヶ所)  
(評価) 実際にサロンを訪問することで、サロンの雰囲気把握することができ、サロン間の交流調整や避難者がサロンに参加したいとの問い合わせの際に適切な対応ができた。各サロン参加者との信頼関係構築にもつながり、サロンでのレクリエーション実施要請や各種相談なども多く寄せられるようになった。

#### 一人ぐらし高齢者ふれあい会食交流会(新規)

- (目的) 75歳以上の高齢者の外出機会を増やし、仲間作りと健康保持のため。  
(実績) 平成29年3月9日 おじまふるさと交流館で開催 参加者30名  
(評価) 新規事業として取り組んだ。参加者の利便性を踏まえ、バスによる送迎を実施したところ、町内各地区からの参加があり、大変好評であった。料理も好評で、また参加したいとの声が聞かれたため、継続して事業を実施していく。

### (3)防災体制の充実

#### 防災組織との関係づくりの強化

- (目的) 地震、火災、土砂災害などの災害に備え、町民の理解と協力を得ながら行政や自主防災組織等と連携し、見守り体制の充実・強化を図る。  
(実績) 町内の福祉団体と情報交換を行った。また、災害ボランティア講座を地区公民館と共催で実施した。  
(評価) 情報交換を行うことで、団体間の連携を図ることができた。今後も各種団体等との連携を深め、有事に対応できるようにする。

#### 避難所体制の整備

- (目的) 災害が発生した際、避難所としてすぐに対応できるよう整備を行う。  
(実績) いきいき荘の改修工事を実施。施設の玄関段差を解消し、外履き入場できるようにした。  
(評価) 施設の改修工事を実施したことで、避難してきた際の利便性を向上することができた。今後も災害時に備え、避難所体制の整備を実施していく。

#### 川俣町・県北地方防災訓練への協力

- (目的) 豪雨による土砂災害の恐れのある中、震度6強の地震が発生し、建物火災や山林火災が発生するという想定で、有事の対応を訓練する。  
(実績) 平成28年10月2日 おじまふるさと交流館で開催 職員3名参加  
社協職員は、婦人防火クラブとJA女性部が作成してパック詰めしたおにぎりを箱詰めした。また、おにぎりの運搬、配布等の作業を実施した。  
(評価) 実際の災害を想定して関係機関・団体との連携を図り、訓練を実施することができた。

#### 災害ボランティア講座の開催（地域との連携による）

- （目的）災害対応を住民自らが主体的に捉え、災害時に起こりうる様々な状況を想定し、有事の際どのように行動すべきかを検討するため。
- （実績）平成 28 年 10 月 4 日 飯坂公民館で開催  
講師：日本防災士会福島県支部 藁谷俊史氏 参加者 23 名
- （評価）飯坂公民館との共催により開催した。内容に関するニーズ調査や対象者への周知など、社協単独で開催するよりも、より地域の必要に応じた内容、方法で開催することができた。

### 3.誰もが安心して暮らせる環境づくり

#### (1)生活環境の整備

##### 福祉タクシー利用者への助成

- （目的）身体障害者福祉法に基づく 1 種 1 級及び 1 種 2 級の身体障害者手帳の交付を受けた方に対し、経済的負担軽減を図るため。
- （実績）500 円のタクシー券を 1 人 6 枚交付。対象者 316 名の内、申請者 40 名（240 枚 120,000 円分）、申請率 12%、利用金額 84,500 円（170 枚）
- （評価）利用者の経済的負担を軽減し、移送手段の確保をすることができた。  
前年度と比較し、申請者数が 36 名から 40 名に増加したものの、対象者数と比べると少ない利用に留まった。  
多くの方に利用してもらえるよう、広報誌やホームページなどを通じて広く周知していく必要がある。また、利用者の利便性を考え、事業内容の見直しを行っていく。

##### 町内遊び場遊具の点検・整備

- （目的）子どもたちが安全に遊ぶことができる環境を保全するため。
- （実績）町内の遊び場遊具を点検し、整備が必要な場所を町担当課に報告した。
- （評価）社協が遊具を点検し、町が整備を行うという体制を構築することで、町との連携を強化しながら環境保全に寄与することができた。今後も定期的に点検を実施し、環境保全に努めていく。

#### (2)健康づくりの推進

##### ふれあい健康保持事業

- （目的）高齢者が元気で生活していくため、ふれあいの機会を創出する。
- （実績）単位老人クラブが 10 名以上で開催する温泉旅行に対し、65 歳以上の参加者、1 人年 1 回 1,000 円を助成した。申請者 560 名、助成金額 560,000 円
- （評価）多くの高齢者に利用していただくことで、健康保持を図ることができた。大変好評であり、利用者は前年度より増加しているため、継続して事業を実施していく。

#### (3)福島第一原発事故からの復興

##### 避難者の見守りや生活相談の実施（福島県社会福祉協議会委託事業）

- （目的）原発事故により避難されている方々の生活状況改善のために訪問、見守り、生活相談等を実施する。
- （実績）生活支援相談員 3 名により避難者の訪問、見守り、生活相談等を行った。  
山木屋地区避難者宅への訪問 延 3,528 件  
浪江町住民の避難者宅への訪問 延 227 件  
南相馬市住民の避難者宅への訪問 延 12 件
- （評価）避難者の生活状況の改善を図ることができた。避難解除となり、町外の高齢者世帯については希望者のみの訪問となるが、今後も避難者に寄り添いながら見守り支援、訪問活動を継続する。

#### 仮設住宅でのサロン開催

(目的) 入居者の閉じこもり防止、孤立死等のリスク解消並びに住民相互の新しいコミュニティ作りのため。

(実績) 仮設サロン 19 回 (参加者延 424 名)、借上サロン 5 回 (参加者延 57 名)

(評価) 閉じこもりを防ぎ、新しいコミュニティ作りに寄与することができた。避難解除となり、仮設住宅からの退居世帯が増えることで少人数となるが、健康チェック等を含めた月 1 回のサロンを継続して支援しながら開催していく。

#### 山木屋地区住民の交流会開催

(目的) 日頃仮設住宅と借上住宅に分かれて生活している山木屋地区住民が一堂に会し、交流する機会を設けるためクリスマス会を開催する。

(実績) 平成 28 年 12 月 10 日 福沢多目的集会所で開催 参加者 100 名

(評価) 今回で 5 回目の開催となる。食事の準備を参加者に手伝ってもらうように工夫し、地区の人が多く参加できるように計画した。山木屋太鼓の演奏やゲーム等を通じ、仮設住宅と借上住宅の良い交流の会となった。

#### 町外からの避難者に対する支援

(目的) 地区住民相互の新しいコミュニティ作りをするため。

(実績) かわまた・なみえ交流会 7 回開催 (参加者延 129 名)

(評価) 地域住民相互のコミュニティ作りに協力することができた。参加者の固定化が見られるものの、新しい生活に意欲的になれるようサロンを継続する。

### (4)社会参加・生きがいづくりの支援

#### 生きがいデイサービスの運営 (川俣町委託事業)

(目的) 介護認定非該当の高齢者に対し、他の利用者とのふれあいや孤立感の解消のため実施する。また、利用者を「いきいき荘」まで送迎する外出支援サービスを実施する。

(実績) 支援員 1 名、支援補助員 (外出活動支援員) 1 名により、毎週火・水・木曜日に実施。デイサービス利用者延 837 名 外出支援サービス利用者延 837 名

(評価) 本事業で実施しているお茶飲みやレクリエーションを通じ、利用者同士の交流を深めることができた。今後は日常生活を補助し、利用者が生きがいを感じられるような行事等を計画していく。

#### 自立支援ホームヘルパー派遣 (川俣町委託事業)

(目的) 介護保険非該当の利用者が居宅において自立しながら日常生活を営むことができるよう、健康状態の異常などを観察し、ホームヘルプサービスを提供する。

(実績) ヘルパー6 名が利用者 13 名に対し 784 時間のサービスを提供。

(評価) コミュニケーションをとりながらサービスを提供することで、自立支援者の健康観察・生活不安要素等を把握し、必要なサービスを提供することができた。

#### 老人福祉センターの運営 (川俣町補助事業)

(目的) 高齢者の健康増進や教養の向上、またレクリエーションなどの機会を総合的に提供する場として、老人福祉センター「いきいき荘」の入浴施設と部屋の開放。

(実績) 風呂利用者 延 4,514 名 入浴料 526,400 円

いきいき荘利用券利用者 延 42 名

無料団体利用 延 162 団体 延 2,935 名

有料団体利用 2 団体 60 名 3,550 円

合計 延 164 団体 延 7,551 名 529,950 円

(月曜は休館、金曜は入浴休)

(評価) 高齢者や福祉関係団体の方々に施設を利用していただいた。施設の老朽化に伴い改修工事を実施した。玄関の段差を解消し、外履き入場ができるようになったことで利用者から大変好評であった。

### 福祉バスの運行

- (目的) 社会福祉活動の増進と活動の際の交通の便を図る。
- (実績) 定期バス運行回数 21 回 延利用者数 7 名  
社協事業による運行回数 16 回 延利用者数 458 名  
他団体利用による運行回数 44 回 延利用者 1,248 名 (実利用 18 団体)  
合計 81 回 延利用者数 1,713 名
- (評価) 定期バスの利用は低調であるが、他団体による利用者が増加している。今後も社会福祉活動増進のために運行していく。

### (5)生活困窮者の支援体制の充実

#### 生活援助資金貸付事業

- (目的) 低所得世帯の一時的な資金不足を解消する。
- (実績) 50,000 円上限の小口の援助資金貸付を実施。  
申請 9 件、貸付決定 9 件 計 420,000 円 今年度分返済未済額 155,000 円
- (評価) 資金貸付により、低所得世帯の生活を支援し、自立更正を図ることができた。今後も低所得者の自立支援のため貸付を行う。

#### 生活福祉資金貸付事業

- (目的) 低所得世帯などに対し、自立のために必要な費用 (資格取得のための費用) や生活費を貸付する。
- (実績) 申請 2 件、貸付決定 2 件 計 157,000 円 (緊急小口資金)  
今年度分返済未済額 41,250 円
- (評価) 他制度との関わりや、生活困窮者自立支援法との連携による制度自体の変更点も多くあるため、それらを十分に理解したうえで貸付の相談に応じる必要性を強く感じた。

#### 高額療養費貸付事業

- (目的) 高額入院費を支払うことが困難な方に対し、その費用を貸付する。
- (実績) 申請 0 件
- (評価) 現在では税金等の滞納により、限度額認定ができなかった方を対象として実施している。平成 28 年度は申請がなかったが、申請があった場合、対応していくこととする。

#### 出産資金貸付事業

- (目的) 出産育児一時金の支給を受けるまでの間、出産に要する費用を支払うための資金を貸付する。
- (実績) 申請 0 件
- (評価) 現在では健康保険から病院へ直接支払われる直接払制度により、貸付実績がない状況が続いている。

#### 生活困窮者支援制度に関する対応

- (目的) 生活困窮者の支援の目的で、県社協が受託している自立相談支援事業に協力する。
- (実績) 支援調整会議を 5 回開催 (延 36 名に対する支援方法を検討)
- (評価) 対象者 5 名が就職決定、3 名が就職活動を開始、1 名が職業訓練を受講、1 名が障害者年金を受給し生活が安定するという結果となり、生活の困窮から脱却するための支援をすることができた。また、管内の関係機関と連携し、支援をすることができた。今後も自立した生活を送れる方が増えるように支援していく。

## 4.地域福祉を推進する連携の体制づくり

### (1)相談体制の充実

#### 心配ごと相談所の開設

- (目的) 問題を抱えている方が少しでもその問題を改善することができるよう支援する。
- (実績) 毎週水曜日の9時から11時に開催。相談員3名、相談件数6件。  
また、平成28年7月6日に福島県高齢者総合相談センターが主催する巡回相談会を開催。一般相談3件、法律相談3件
- (評価) 相談者の悩み丁寧に聞き、相談者に寄り添った相談支援を実施することができた。  
解決できない相談の場合は他機関を紹介することで、問題改善へ寄与することができた。今後も、相談者の悩みを改善することができるよう、きめ細かな相談援助を実施していく。

#### 弁護士相談会

- (目的) 法律が関係する問題を抱えている方の悩みを解消する。
- (実績) 平成28年11月16日開催。相談件数4件。
- (評価) 弁護士に相談することで、普段は解決が困難な相談者の法律に関する悩みを解決することができた。今後も法律が関係する悩みを抱えている方の解決の糸口となるよう事業を実施していく。

#### 高齢者支援システムづくり事業（ふれあい相談員の配置）

- (目的) 在宅要援護高齢者等のニーズ発見を強化する目的で民生委員を補佐する「ふれあい相談員」を配置する。
- (実績) 民生委員の改選期に合わせて任期満了となり、平成29年1月20日から平成32年11月30日までの任期で60名を委嘱した。  
ふれあい相談員委嘱状交付並びに民生委員・ふれあい相談員研修会を平成29年1月20日 おじまふるさと交流館にて開催 参加者90名
- (評価) 地域のニーズや課題を民生委員に繋ぐことができた。町民の生活不安は様々なので、今後も地域の目となっていただくよう活動を支援する。

### (2)情報提供の充実

#### 社協だより等の発行

- (目的) 社会福祉協議会の事業内容やお知らせを、町民へ広報するために発行する。
- (実績) 年3回発行（7月・10月・3月）
- (評価) 発行頻度やページ数の関係で最新状況を広報するのが難しく、今後の検討課題である。内容については、社協だよりを見てデイサービスや配食サービスの利用につながったこともあり、広く社協の事業を紹介することができた。

#### 社協ホームページの定期更新

- (目的) 年代に応じて適切な情報ツールを用い、様々な層の町民が適切に情報を受け取れるよう、情報提供の充実に努める。
- (実績) 平成27年10月よりホームページを開設し、決算情報や社協の各事業への取り組みについて、広くお知らせをしている。  
アクセス件数 4,057件（平成29年3月末現在）
- (評価) 幅広い年齢層に分かりやすく、見やすいホームページの更新や編成をし、今まで以上に社協の事業について理解を深めてもらうきっかけとなった。

### (3)福祉サービスの充実

#### 介護者激励金の支給

- (目的) 介護者の労苦をねぎらうとともに、高齢者福祉を増進する。
- (実績) 対象者204名、支給金額1,020,000円（1人5,000円）
- (評価) 激励金を支給することで、介護者の日々の労苦をねぎらう一助となることができた。介護は日々継続して行われるため、今後も事業を実施し、介護者を激励していく。



### 高齢者配食サービス助成事業

- (目的) 高齢者に在宅で栄養バランスのとれた食事の機会提供と、その費用負担の軽減を図る。
- (実績) 新川が宅配する 650 円の弁当を月 20 食まで 200 円補助する。登録者 28 名、助成金額 249,200 円 (1,246 食分)。
- (評価) 高齢者の食事の質が向上し、費用負担の軽減を図ることができた。また、弁当を宅配することで、高齢者の見守りにもつながった。登録者も前年度と比べて増加しているので、引き続き事業を実施していきたい。

### 日常生活自立支援事業【あんしんサポート】(福島県社会福祉協議会委託事業)

- (目的) 認知症・障がい等により日常生活上の判断に不安がある方に対し、安心した生活を送っていただくため、「福祉サービスの利用援助」「日常的金銭管理サービス」「書類等の預かりサービス」を実施する。
- (実績) 契約者 4 名に対し生活支援員 3 名が年間 51 回の支援を実施した。
- (評価) 在宅で安心した生活を送っていただくため、支援や情報提供を行うことで、契約者の生活安定に寄与することができた。契約者それぞれに生活上の不安が違うので、寄り添いながら支援を実施していく。

### 訪問介護サービス利用者助成事業(川俣町補助事業)

- (目的) 低所得世帯(非課税世帯)が訪問介護サービスを利用した際、費用の一部を助成する。
- (実績) 対象者 1 名、助成総額 40,435 円
- (評価) 対象者は少ないが、非課税世帯にとっては利用料金の 4 分の 1 という助成金額は大きいものであるため、今後も継続していく。

### ひとり親家庭への食事券給付

- (目的) ひとり親家庭の親子と一緒に食事をすることで、ふれあいの時間を創出する。
- (実績) 中学生以下の子どもがいるひとり親家庭に 1 人 1,000 円分の食事券を給付。対象者 97 世帯(母子 92 世帯・父子 5 世帯)に対し、申請件数 35 件(母子 33 世帯・父子 2 世帯 103,000 円分)、申請率 36%、利用者数 35 件(103,000 円)
- (評価) 利用した親子のふれあう機会の増加に寄与することができた。前年度と比較し、利用者が 29 件から 35 件に増加したが、対象者世帯と比較すると少ない利用に留まった。利用者が増加するよう内容を検討し、周知をしていく必要がある。

### ひとり親家庭入学祝金支給

- (目的) ひとり親家庭の児童が川俣町立小学校に入学した際の援助激励をする。
- (実績) 対象者 9 名(1 人 5,000 円)、支給金額 45,000 円。民生委員を通じて支給した。
- (評価) 児童及びその親に対し、援助激励をすることができた。今後も対象者に喜んでいただけるよう事業内容を検討し、継続実施していく。

### 障がい者へのホームヘルパー派遣

- (目的) 障がいを抱えた利用者が居宅において、不安なく日常生活を営むことができるよう、必要なホームヘルプサービスを適切に提供する。
- (実績) ヘルパー 6 名が利用者 7 名に対し、792.25 時間のサービスを提供した。
- (評価) 利用者の状態に合わせ必要なサービスを提供することができた。今後もヘルパー同士で連携を密にしながらサービスを提供していく。

### 居宅介護支援事業所の設置・運営

- (目的) 要介護状態にある契約者に対し、居宅において適切な介護サービスを提供し、可能な限り自宅で自立した生活を送ることができるよう支援する。
- (実績) 介護支援専門員 2 名で適切な介護サービスを提供した。市町村から委託を受け、要介護認定調査を延 118 件実施した。ケアプラン作成は延 1,003 件実施した。
- (評価) それぞれの利用者に対し、適切な介護サービスを提供することができた。今後も利用者が安心して在宅生活を送ることができるよう支援していく。

#### 災害見舞金の交付

(目的) 火災や自然災害により被災した方々を御見舞する。

(実績) 交付金額 45,000 円 (住宅火災 3 件、内 1 件は被災者死亡)

(評価) 被災された方々に寄り添いながら御見舞をすることができた。今後も継続して事業を実施し、災害が発生した場合、即座に対応していく。

#### すみよし保育園の受託運営

※別紙、管理運営状況報告書のとおり。

### (4)地域福祉ネットワークの構築

#### 地域ネットワークづくり

多様化した地域の福祉課題に柔軟に対応し、効果的な地域福祉活動を推進するため、地域で活動する組織・団体間の橋渡し等を行い、地域内での団体間のネットワークづくりを行ってきた。

特に住民組織である老人クラブ連合会、民生委員協議会、赤十字奉仕団、連合婦人会とは年間を通して情報交換を行い、本会との連携を構築してきた。

地域ネットワークが広がりつつあるため、さらに連携を深めながら地域ネットワークを構築していきたい。

#### 福祉ニーズや課題の把握

地域の福祉課題を把握し、「誰もが笑顔で元気に暮らせるまち かわまた」を目指すために活動をしてきた。

特に住民組織である老人クラブ連合会、民生委員協議会、赤十字奉仕団、連合婦人会とは連携を密にし、福祉ニーズや課題の把握に努めてきた。

住民のニーズは日々変化していくので、職員は常に情報収集に努め、福祉ニーズや課題の把握に努める必要がある。

## 5.地域福祉を推進するための機能強化

### (1)組織の強化

#### 組織体制の強化

公共性と民間性を併せ持った地域福祉を推進する民間団体として、地域に開かれた組織体制を構築するため活動してきた。

資金面では、町や県社協等からの補助金・委託金により、安定的に事業を実施していくことができた。

各種事業については、内容の検討や見直しを行い、参加者や利用者に質の高いサービスを提供することができた。

合わせて、お預かりした寄附金を事業活動に充当し、一部を基金に積立することで社協の組織基盤を継続することができた。

今後も効率的な地域福祉活動を推進していくため、組織体制を強化していきたい。

#### 職員の資質の向上

複雑・多様化する福祉ニーズに対応するため、職員一人一人が仕事に責任を持ち町民に信頼される職員となるよう、県社協主催等の各種研修会に積極的に参加し、資質を向上することができた。

今後とも町民の方々から信頼される職員となるよう、自己研鑽に努めていきたい。

## (2)財政の強化

### 社協会員加入の促進

- (目的) 一般会員会費と特別会員会費により財政強化を図る。
- (実績) 一般会員会費は川俣町行政區長、行政連絡員に依頼し、4,744 世帯から 1 口 800 円を集めていただいた。納入金額は 3,264,800 円 (4,081 世帯)、納入率は 86% となった。
- 特別会員会費は社協の理事・監事・評議員・民生委員 12 名に依頼し、職員とともに企業等 185 事業所から 1 口 5,000 円を集めた。納入金額は 1,285,000 円 (185 件 257 口)
- (評価) 避難区域のため、山木屋地区の募集は中止したものの、財政の継続を図ることができた。また、特別会員会費では 14 件の新規事業所から協力を得ることができた。今後も会費を納入していただけるよう社協事業を周知していく。

### 共同募金活動の実施

- (目的) 共同募金、歳末たすけあい募金の募集を行う川俣町共同募金委員会の運営及び集まった募金により各種福祉事業を実施する。
- (実績) ① 共同募金 1,841,053 円 (次年度のサロン活動助成事業や各種講座の開催、災害見舞金等の共同募金配分事業に充当する)
- 歳末たすけあい募金 1,336,659 円 (下記の歳末慰問金贈呈事業費用)
- ② 歳末慰問金贈呈事業 1,232,000 円 616 名 (残額は次年度へ繰越)
- |            |           |       |
|------------|-----------|-------|
| 内訳：寝たきり高齢者 | 454,000 円 | 227 名 |
| 一人ぐらし高齢者   | 446,000 円 | 223 名 |
| 知的障がい者 (児) | 118,000 円 | 59 名  |
| 母子家庭児童     | 184,000 円 | 92 名  |
| 父子家庭児童     | 30,000 円  | 15 名  |
- (評価) 募金収入のほとんどを占める戸別募金が年々減少しており、募金の使途などをいっそう分かりやすく町民へ周知し、共同募金への理解促進を図る必要性を強く感じる。また、歳末事業については、引き続き民生委員に協力していただき、慰問金贈呈時の見守りをより大切にしていきたい。

## その他

### 百歳賀寿祝金贈呈事業

- (目的) 100 歳となった方の賀寿を祝い、祝金を贈呈する。
- (実績) 対象者 3 名、贈呈金額 30,000 円 (1 人あたり 10,000 円)
- (評価) 川俣町の高齢化率は平成 29 年 3 月末現在 37.5% であり、今後も賀寿を迎える方が増えていくと考えられる。賀寿となった方を御祝するため、今後も継続して実施していく。

### 福島地区電気工事協同組合川俣支部主催

#### 一人ぐらし高齢者等住宅照明器具点検事業への協力

- (目的) 福島地区電気工事協同組合川俣支部が、要援護者の安心安全を支援する目的で、一人ぐらし高齢者等の住宅を訪問し、点検や交換修理を無料で行う。社協は依頼を受け、民生委員を通じた希望者の取りまとめや連絡調整等を行う。
- (実績) 平成 28 年 8 月 30 日開催 24 名の希望者に対し 10 事業者が訪問して点検を実施。
- (評価) 事業実施当日が台風接近による大雨だったこともあり、照明器具の点検等によって要援護者の安否確認と、生活上の安心安全を支援することができた。今後も依頼があった場合、協力していく。